

一般研究集会（課題番号：28K-02）

集会名： 災害メモリアルアクション KOBE2017

主催者名： 人と防災未来センター，京都大学防災研究所 ※共催：京都大学防災研究所自然災害研究協議会

研究代表者： 河田恵昭

所属機関名： 公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター

所内担当者名：都市防災計画分野 教授 牧 紀男

開催日：平成 29 年 1 月 7 日

開催場所：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

参加者数：200 名 (所外 199 名，所内 1 名)

・大学院生の参加状況： 1 名 (博士 1 名) (内数)

・大学院生の参加形態 [聴講]

研究及び教育への波及効果について

本研究集会に参加した阪神・淡路大震災を経験していない学生が，震災の教訓を教え伝える立場になるような人材育成に貢献することや，地域や世代を広げた若手世代による防災活動により，震災の記憶継承と今後の防災・減災への貢献が期待できる。

研究集会報告

(1)目的

阪神・淡路大震災を経験していない学生が，震災の追体験を行い，それを基盤とした様々な地域や世代へ広げていく防災活動に関する事例報告と意見交換を行う。単年度の取り組みではなく，この先の 10 年を見据えた活動を行うことで，震災の記憶継承と防災・減災への寄与を目的とする。また，様々な学生が集うことで，次なる防災・減災を担う若手世代のネットワークを構築することも狙いとする。

(2)成果のまとめ

「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005 年実施）」，その教訓を次世代に伝える「災害メモリアル KOBE（2006～2015 年実施）」に続く発展的な取り組みとして位置づけられる。阪神・淡路大震災の風化が懸念される中，震災の教訓を教え伝える立場になるような人材育成に貢献することや，地域や世代を広げた若手世代による防災活動により，震災の記憶継承と今後の防災・減災への貢献が期待できる。

また，様々な学生が集うことで，次なる防災・減災を担う若手世代のネットワークを構築することができた。

(3)プログラム

10：00 開会・挨拶

災害メモリアルアクション KOBE 企画委員会委員長

人と防災未来センター震災資料研究主幹・京都大学防災研究所教授 牧 紀男

10：10 活動発表（各班 15 分）

兵庫県立舞子高校，国立明石工業高等専門学校（2 年生），国立明石工業高等専門学校（3 年生），
関西大学，神戸学院大学，兵庫県立大学，立命館大学

12：05 公開サロン「未災者が伝えられること」

この活動で印象に残った経験を参加学生同士で共有し，自分たちと同世代の若者に対して「KOBE のことば」をどのように伝えることができるかの意見交換

ファシリテーション担当：高森順子（ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部研究員）

グラフィックレコード担当：鈴木沙代（京都産業大学教育支援研究開発センター）

サロン参加者：参加団体の学生等（当日参加している方々全員）

12：55 閉会・挨拶（講評）

災害メモリアルアクション KOBE 企画委員会顧問・人と防災未来センター長 河田恵昭

(4)研究成果の公表

報告会で発表された内容等を報告書にまとめ、関係者に配付するとともに、人と防災未来センターホームページにも掲載。